

福島の子どもたちのために世田谷の私達ができるうこと！

ふくしまっ子リフレッシュin世田谷

2025年・冬 12月24日～12月28日 4泊5日



記念撮影@羽根木プレーパーク(2024年・冬のリフレッシュ)

東日本大震災と福島の原発事故から、2026年3月で15年を迎えます。福島の電気を使いながら世田谷に暮らす私たちに出来ることはないだろうか、と区内のさまざまなグループや個人が考え思いついたのが、福島の子どもたちに世田谷の公園で思いっきり外遊びをしてもらう、というプロジェクトでした。2012年春から、長期休みに区内で宿泊し、砧公園や羽根木プレーパークなどで外遊びをする「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」を実施してきました。コロナ禍による中断はありましたが、この冬で28回目となります。もう原発事故は終わった、これからは再稼働、との動きが強まってきています。しかし、福島はまだまだ復興からは程遠く、子どもたちへの甲状腺異常の今後の影響も懸念されることを私たちは知っています。私たちに出来るのは、まず「忘れない」こと、そして「福島の真実」を知ること。そのために、区民と世田谷区との「参加と協働」の事業にご協力をいただければ幸いです。

Part 28



この活動を安定的に続けられるようにボランティアを募集しています。

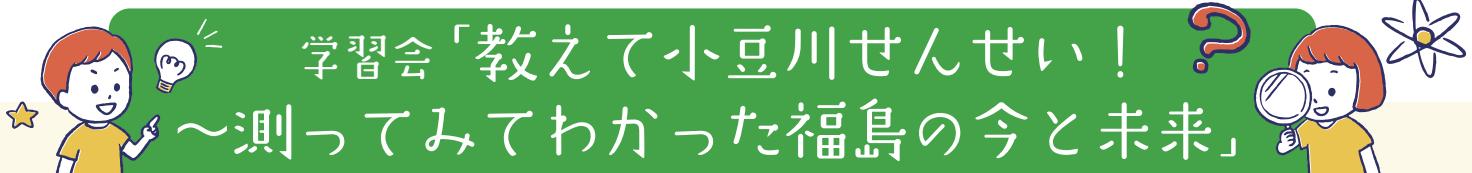
お問い合わせ、応募は以下のメールアドレスへお願いします。ホームページには過去の活動の様子も掲載していますのでご覧ください。

【メール】fuku.seta.tomoni@gmail.com



【ホームページ】

<https://savefukukids.jim-dofree.com/>



12月27日(土) 16:00～18:00

【会場】 大蔵第二運動場 (世田谷区大蔵4丁目7-1)

※詳細は参加者の皆様に改めてご案内いたします。

【参加費】 無料 【定員】 先着20名まで

【登壇者】 小豆川勝見さん

【申込み】 右の2次元コード、または下記メールアドレスからお申し込みください。

fuku.seta.tomoni@gmail.com

①お名前 ②電話番号(当日連絡用)を明記してお申し込みください。



「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷」の期間中、福島のご家族と世田谷に暮らす私たちが、共に福島の現状について学習し、交流を深める機会を二年前から作ってきています。今回は、3.11の後、毎月のように福島県に通い、事故に起因する放射性物質を測定してこられた小豆川勝見さんにお話しいただきます。「福島の今」を語っていただき、これから私たちがすべきことは何か、保養の意義も含めて考えあっていきたいと思います。この機会に、お子さんを含め、多くの世田谷区民のみなさまの参加をお待ちしています。

【小豆川勝見(しょうずがわかつみ)さんプロフィール】

東京大学 大学院総合文化研究科 助教。専門は放射線測定。帰還困難区域の汚染状況を測定し、除染がどうすれば早く進むかを研究する傍ら、福島県の小中学校などで子どもたちに放射線についての授業を行っている。2016年12月から2025年3月まで世田谷区教育委員会放射線アドバイザー、2018年11月から現在に至るまで大熊町除染検証委員会を務める。



【主催】福島の子どもたちとともに・世田谷の会

【共催】世田谷区、世田谷区教育委員会 【協力】社福)世田谷ボランティア協会、社福)世田谷区社会福祉協議会

福島の子どもたちとともに・世田谷の会は、2012年より世田谷区内の20の市民団体がつながりスタート。世田谷区と世田谷区教育委員会等の協力を得て、外遊びが十分にできない福島の子どもたちと家族が世田谷で過ごす「ふくしまっ子リフレッシュin 世田谷」を長期休みに実施してきました。これまでに27回、延べ1,389名が参加しました。また、福島の現状を知るために講師を招いて講演会を22回開催しています。

2024年冬の リフレッシュ報告

4泊5日で6家族17名が大蔵第二運動場の宿泊施設に滞在しました。子どもは1歳から15歳まで幅広い参加がありました。また福島からの学生ボランティアを公募し、高校生1名を受け入れました。



外遊び@羽根木プレーパーク



遊ぼうパン@羽根木プレーパーク



シャボン玉遊び@砧公園



外遊び@砧公園

参加者 からの声

次男があんなに泥んこになって遊んでいたのは初めて見ました！運営の方や、プレーパークの方が積極的に話しかけてくださったり、下の子を見てくれてとても助かりました！少しの時間でしたが私もリフレッシュできました！

スタッフの皆さんにとっても愛情いっぱい、継続して保養をしてくださっていて、プレーパーク関係者、世田谷区長や行政職員の方が、とっても前向きに活動されているのをみて、原発事故被災地の双葉郡、福島県が、子どもに良い環境を残していくよう、個人としてできることを頑張る勇気を頂けた。でも住んでいると、とてもエネルギーが必要になるので…また絶対に参加したいです!!

ボランティア からの声

私は福島出身で、東京に避難中に母が会の立ち上げに関わったことから、当時はスタッフの子どもとして、また福島サイドとして、どちらの立場かも自分は意識せずに、参加した子どもたちとただ一緒に遊んでいました。今回からはボランティアとして参加したわけですが、内気な自分が子どもたちと仲良く遊びながらサポートできるか不安もありましたが、スタッフの皆さんや複数回参加されているご家族の皆さんに逆に助けられながら、楽しい時間を過ごすことができました。震災から時が経ち、自分も当時の現実をほとんど意識せずに暮らしています。だからこそ、思い直すこと、考える機会にもなるこういう活動に関われることに感謝しています。これからもこの活動に参加し、福島の生まれであることを忘れずにいたいと思います。

【福島の子どもたちとともに・世田谷の会】構成団体

世田谷こどもいのちのネットワーク/世田谷市民運動いち/NPO 僕んち/人の泉・オープンスペース“Be!”/一枚の葉を森へ/世田谷こども守る会/認定NPO法人 プレーパークせたがや/優れたドキュメンタリー映画を観る会/「月桃の花」歌舞団・世田谷/世田谷区教職員組合/自主保育 野毛風の子/神戸をわすれない・せたがや/SAN/NPO法人 野沢3丁目遊び場づくりの会/

自主ようちえん ひろば/NPO法人 世田谷マンション管理組合ネットワーク

【協力団体】生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会